

目的 第4報ではアームホール製図法と人体体型要因との関係を考察し、より適合するアームホール製図の方法を見い出すことを目的とする。

方法 被験者、人体計測、バイネック形ドレスの着用実験を第2報同様に行った結果、腋窩部へ向かってつっぱりや不要なしわが生じた。そこで採寸寸法腕付根厚径とバルベック示数の二つの変数からサイズの異なる4名の被験者を任意抽出し、図に示す製図寸法前後腋窩点間距離 $\overline{BF}$ を5水準、製図寸法 $\widehat{BAF}$ を一定とした5種類のバイネック形ドレスを製作し、ランダム着用によって外観の官能検査を行なった。

結果 官能検査の結果から、アームホール製図寸法 $\overline{GAH}$ が採寸寸法上部胸囲 - (採寸寸法前幅 + 採寸寸法後幅) $\frac{1}{2}$ に 2.0 ~ 2.5 cm のゆとりを加えた寸法および採寸寸法腕付根厚径に近い寸法の時人体へ適合するようである。

